第３回石巻市総合計画審議会　会議録

■日　時　令和２年８月３日（月）　午後６時～午後８時１０分
■会　場　石巻市役所防災センター　多目的ホール
■出席者　別紙のとおり
■会議内容

１　開会
　委員数２０名に対して１３名が出席しており会議は成立

２　開会あいさつ　岩田会長

３　議事
（１）　報告事項　第二次石巻市総合計画基本構想骨子案について
　（説明：復興政策課）　資料１、２

質疑応答

会　長　：欠席者へ意見徴収は行うのか。
事務局　：審議内容を付した上で欠席者へ報告し、意見徴収を行う。
会　長　：転入者の多くが市外に移りたいということだが、どこからの転入者なのか、また、どういう年齢層になっているのか。
事務局　：転入者については、過去３年以内に市内に転入された方が対象となっている。理由としては快適でない、不便だという意見が多かった。５００名を対象とした調査であり、回収率が３０％、約１５０人から回答を得ている。どこからの転入かは把握していないが、市内の転入先として、石巻地区が８０％、河南地区が１０％、桃生地区が２％、河北地区が１％となっている。年齢別では、１８～２９歳が３０％、３０～３９歳が３０％、４０～４９歳が１４％、５０～５９歳が８％、６０～６９歳までが８％となっている。
会　長　：震災復興の事業に関して、転入したということか。
事務局　：震災復興事業というよりも、仕事等で転入して継続して住んでいる方と認識している。
会　長　：高齢者の８０％近くが住み続けたいというのは愛着があるからだと思うが、転入者から市外に移りたいと言われていることについて、もう少し調べたほうが良い。石巻市のイメージが「実際に生活してみるとあまり良くない。」と思われるのでは困るだろう。また、少子高齢化を食い止めるということは、福祉的な部分は改善していると思うが、石巻市として少子化について意識化はなかったのか。日本全体そうであるが、世界的には先進国になれば少子化は進むが、東アジアが特に低い。男女共働きの世界になってきて少子化は仕方がないということだけではないような気がする。子どもが産まれないということに対して具体的な施策はなかったのか。
事務局　：まち・ひと・仕事創生総合戦略の中では、少子化対策を実施している。総合計

画の中の検証の中では、特化してとりまとめてはいないが、事業としては実施している。

会　長　：空き家率がかなり高いが、この原因は何か。２０％の空き家率はゴーストタウンに近いと思う。都市というのは、大体６％位は空き家を持っていないと人が入れ替わりできないとされているが、２０％というのは高い。単に震災後だからなのか。

事務局　：震災後の数値となっている。震災の要因も大きくあると考えている。

委　員　：事務局としてアンケート回収率についてどう考えているか。予想と比べてどうか。また、他の市町村と比較するとどうなのか。

事務局　：回収率は３０％を最低限の目標として実施してきた。アンケートの正確性を示す指標があり、それをクリアするのが３０％であった。事務局としては正確度について担保されているものと考えている。他市町村との比較は行っていない状況である。

委　員　：他市町村と比べることについて、市民の意識がどうかということに関心がある。このような重要なアンケートの回収率が３０％程度なのはどうかと思う。市民の意識の高揚を図らないといけないのではないかと思った。

会　長　：人口はどれくらいか。

事務局　：約１４万人である。

会　長　：アンケートの有意性からいうと少し少ないのではないか。

委　員　：重要なアンケートに対し、自分たちのまちを良くしたいという市民の意識としてどうなのかということを聞きたかった。

委　員　：石巻市外に移りたい理由が不快・不便ということだった。それと世帯年収が４００万円未満の割合が高いということだったが、１０～３０代の若い方に市外に移り住みたいという希望が多い中、経済力との関連はないか。もう少し深堀りすると、石巻市への定着を図るための原因が見えるのではないか。また、世帯年収について、石巻市の平均世帯年収はどれくらいなのか、それに対して４００万という数字が高いのか、低いのか。空き家率の問題はインフラ会社からすると、震災で空き家率は高くなっていると思う。それから、復興公営住宅の入居率は、自社の調べでは９３％程度で、７％が入っていない。入ると言っていた人が入らなくなっており、空き家率は年々高くなっている。家を作りすぎてしまったということもあると思うが、そういう傾向で多くなったと思う。復興公営住宅に居住している方の平均年齢は何歳位なのか。高いのではないかと推測している。６０代以上、平均すると７０代前後だと思う。１０年経つとどうなるのだろうという心配している。そういった事態を踏まえた上で、どう対策を取るか考えていかないといけない。１０年の計画なので、１０年後がどうなっているのか、というのが重要になる。

事務局　：世帯年収の平均については、資料で確認して回答したい。復興公営住宅についても、正確なところは後でご報告したいが、高齢化率が４０％後半だったと記憶している。一般の住宅と比べるとかなり高い状況である。こちらについては、今後空き家が出てくるということなので、被災者以外への提供等の対策が必要になってくると考えている。

会　長　：復興公営住宅は空き家が増えていく訳で、今後一般住宅として活用していくと思うが、復興公営住宅の活用に関する基本計画は立てているのか。

事務局　：現在策定中である。元々ある市営住宅を解体しつつ、復興公営住宅のほうに移転していくという計画である。

会　長　：昔は戸数だけでやっていたが、現在は中心市街地の活性化や郊外化への対策等あると思うので、どの公営住宅を用途廃止し、どこへ集約していくのか期待したい。

委　員　：アンケート調査のうち生活基盤の重点改善の中に、河川・水路の整備がある。石巻市は、特に市街地で堤防が全くなかったところに堤防が整備されてきたが、アンケートの結果で改善する必要があるというところに違和感がある。河川と水路のどちらなのか。

事務局　：河川と水路の項目については、同じ括りで調査しているため、分けて把握していないというのが実情である。

委　員　：重点改善で一緒にして良いか疑問であるが、河川については、堤防がなかったところに堤防ができているため安全度はかなり上がっていると思う。そこに対して改善の余地があるといわれると辛いものがある。水路については地盤沈下しているため、我々は内水と呼んでいるが、そちらの被害が多いので改善は必要だと考えられる。

委　員　：骨子案について、感想と意見を述べる。１０年後の石巻市のあるべき姿、それを実現するために基本計画・実施計画を立てていくと思う。１０年後の姿について、できるだけ定量的にしたい、できないだろうかと考えている。数値が出ているところもあるが、果たして１０年後の石巻市はどうなっているのか。また、６つ基本目標があるが、それぞれのベクトルがバラバラに見える。基本目標は５つにして、基本目標６「市民の声が共鳴し、市民と行政が共に創るまち」は、共通目標になるのではないか。財政状況が極めて重要だと考えている。どのように収益を得て、どのように配分していくか。要求された予算をつけていくのではなくて、全体のバランスを見ながら市民と共にウエイトをつける。基本目標６のベクトルが違って独立してあって良いのか。行財政は全部に関係しているのではないか。

会　長　：行財政については、当初から議論があった。事務局から何かあるか。

事務局　：定量化については、基本目標を基本計画へつなげる段階で目標指標、ＫＰＩを設定していく。その目標数値を今後立てていく作業となる。基本目標６について、これまでの石巻市の総合計画には行財政の項目がなかった。ただし、今後の将来を見据えたときに、財政力等も１つの指標として必要なのではないか、ということで財政や収納、情報公開というものを方向性付けて、今回提案した。

会　長　：一般的な市町村の計画だと、行財政は一番大事だが飛ばして作っていた。

委　員　：構想の中に、「コロナウイルスを想定した新しい生活様式」が入っているが、今のコロナウイルスの話をしているのか、今後のコロナウイルスに準ずるような様々な疫病を踏まえているのか。例えば、すでにリモートの生活が始まっている。私の場合、リモートに対応するだけで疲弊している。これをどう入れるかで、他の全部の項目が変わってくるのではないか。社会システムを変える

という話にまでなっているので、これをどこまで入れるのか、計画の中で見えない。果たして、今この時期にこれを入れると、予定通りに構想が立てられるのか、ということを懸念している。場合によってはもう１年位ないと、議論しきれないのではないかとも考えられる。

事務局　：新しい生活様式については、新型コロナウイルスだけでなく、今後の対応として日常的になっていくものだろうと考えている。課題を整理し、目標ごとに違った方向性があると考えている。まだ具体的に作業は進んでいないが、今後目標を展開する中でそれぞれ施策を位置づけていきたいと考えている。

会　長　：サラリーマンはテレワークということは分かりやすいが、農林水産業はどうするのか、店舗はどうするのか、それぞれの分野でしっかり話をしていかないといけない。そもそもコロナウイルスという言葉が良いのか。感染症の流行は、これからも世界的に十分起こり得る話である。それぞれの分野でしっかり議論をする体制ができれば良い。テレワーク等は１０年以上前から言われている。もっと議論していきたい。

副会長　：議論の中で、第１回の審議会でも、財政計画の問題が出されたが、審議会としての役割について確認したい。総合計画そのものが最上位計画であることは分かるが、基本構想・基本計画・実施計画と３つに分かれている。その中でも、基本構想と基本計画について審議するということで良いか。実施計画については、３年ごとのローリング、財政計画に合わせてローリングしながら実施計画を策定し見直していく。そして、全体の計画を１０年間かけて段階的に目標に向かって整理していくということで良いのか。もう１点、従来もそうだが、首長の市政方針について、市長の方針について何らかの形で入れる必要はないのか。

事務局　：基本構想・基本計画・実施計画について、審議会では基本構想と基本計画について審議して頂く場としている。実施計画については、財政が絡むものなので、市の内部でローリングして進める。首長の方針については、首長の考えがどう反映されるかは、その通りであるが、現在作っているのは市としてどういった方向に向かうべきか念頭に置いて作成している。現市長の想いも含まれているが、今後についても首長の意見が反映されるものだと考えている。

会　長　：私が福島県の三春町にまちづくりで入ったのは１９８３年で、その間に首長は３人変わっている。一番始めに作った計画が実のあるものだったということもあるが、役場も含めて４０年間一貫してその計画に基づいて推し進めている結果が今である。市長が変わったからといって定格が変わるものではないと思う。市長がこうしたいという想いを聞くことも必要だが、それを聞きながら強弱をつけていくものであると思う。

会　長　：最近の市町村は相当合併が進んでいる。旧石巻市以外の地域は核を持ちながら農林漁業のまちをつくっているが、地域の代表の方から何か意見はあるか。

委　員　：河南の前谷地に住んでいる。仙台から転入して４年になる。大学から仙台市に住んでおり、実家に戻ってきた。河南は取り残されている印象がある。須江、しらさぎ台、鹿又は少し進んでいるが、前谷地は中途半端な位置にあるため、ものすごく遅れている地域だと感じる。石巻市と言われても、他の地域の話に

受け止れる。また、私は統計調査の仕事をしているが、アンケート回収率の３０％は低いと思った。私たちの業界は６０～８０％が普通である。内閣府の仕事でも７０～８０％を求められている。今から３０年程前、仙台で活動しているとき３０％というのはあったが、３０％では意見は出てこないのではないか。もう少し欲しかった。高齢者調査で復興公営住宅に行っているが、高齢者が非常に多い。空き家は、住んでいたが亡くなったり、そのまま施設に入ったりする方がいるのも原因にあると思う。収入の部分も、高齢者が増えると収入４００万円未満も増えるのではないかと感じる。

事務局　：地域ごとに様々な特性を持っているので、その特性を踏まえて計画策定を進めていきたい。

会　長　：計画を立てるときには、それぞれの地域で立てていく必要がある。河南の中でも、新しい地域もあれば古い地域もある。また、住民自治の世界をどう取り戻すか、役場が大きくなれば成る程、役場が住民から遠くなっていく。そういったシステムの面を考えてもらいたい。

委　員　：地域コミュニティの中で、ＮＰＯ法人の震災前後の数を教えてほしい。

事務局　：震災前、２８の認定ＮＰＯ法人数だったものが、震災後、令和元年度には６５まで増加している。

委　員　：今後増える要素はあるのか。

事務局　：傾向としては、震災後に市外から復興に伴ってボランティア等の立ち上げが多かったため、今後急増ということはないと考えている。

（２）審議事項　第２次石巻市総合計画基本構想（素案）について
（説明：復興政策課）　資料３

質疑応答

会　長　：石巻市は相対的に大きな自治体なので総花的にならざるを得ない。基本構想の段階ではあるが、全てが横軸になっている。「これに対してこうしましょう。」という流れになっている。都市と書いてあるが、これは石巻市全域のことなのか、地域や集落を意識して書いているのか、全然見えていない。縦軸をどのように入れていくかが議論の骨子になると思う。本当にまちづくりをしたいのであれば、「教育はこうしましょう。あれはこうしましょう。」ではいけない。一次産業、二次産業、三次産業と分類しても分からない。例えば、水産業は一次産業だが、水産加工業は二次産業である。その固まりで捉えないと、六次産業化と言いながら、そういう分類で説明されても分からない。また、ブランド化といったときに、漁業が盛んなのは分かるが、農林業や畜産業をイメージできない。そういうところをイメージできるような統計の取り方、解析の仕方が必要である。もう１つは、観光業を発展させたい、交流人口を増やしたいなら、風光明媚な景観や温泉等といった地域の特性、あとは歴史を大事にしないまちづくりは成功しない。古い建物を残せば良いというものでもない。後でアクターズネットワークというのを

調べてほしい。石巻は大きなまちであり、昔からそういうまちは何でもある。例えば、団子や饅頭は、職人さんがいればできるのではなく、団子なら米が必要、饅頭なら小麦粉と小豆が必要になる。昔そういうものを作っていた人々は、ネットワークを組んで一つの社会を形成していた。石巻市が都市として栄えるために何が必要だったか。昔は必要だったが、今はそうではないこともある。今では、実は小豆は中国から買った方が安い等、役割が変わってくることもあるが、その上で生活ができてくる。そういったところを意識して縦軸を作ってほしい。それぞれの地域があって、まちがあり、集落がある。そこに歴史があって、文化がある。文明ではなく、文化である。そういったことを表せる軸を盛り込んでいかないと、日本中どこで作っても一緒になる。良くはできているが、６０点はあげられても、１００点はあげられない。役場の中だけで話をしていてはいけない。

委　員　：今の会長の話に近い。第３編の構造、構成を聞きたい。フレームというのが出てくるが、その意味が分からない。基本目標を達成するための様々な施策をした場合の予測値がこのフレームなのか。人口減少という現状を踏まえたら、出生率が上がって若年層が増えるという未来を描かないといけない。現在の構成だと、統計的にこうなっている、とフレームが先にきている。このフレームに合わせて計画を作っていくのか、こういう施策を展開していくとこんな将来が待っているのか、どちらの意味でのフレームなのか確認したい。

事務局　：フレームの考え方について、今の作り方としては、一つの将来像に向かって分野別の基本目標を設定している。基本目標を達成するための取組の展開となっている。今の作業上、市で実施している全ての事業を体系化し、それを整理した形で作業を行っている。その目標に向かって不足する部分についてはこれからの作業となる。目標に対して不足する部分は、施策の展開に付け加えていくことを考えている。

委　員　：将来をどのように描くか、嘘であってはいけないが、希望を描くのが構想であってほしいというのが意見である。

委　員　：会長が初めに軸と言っていたが、同意見である。基本目標を連携するような軸が必要である。文化と先程あったが、石巻のエリアの姿、１０年後の前谷地はどうなっているんだろう、そういうことを思いながら聞いていた。エリアごとのイメージを考えると、地域特性に応じたゾーンの形成、あるいは拠点化でも良い。それが難しければそれらをつなぐもの、自然環境の骨格となる北上川の地域資源や散策的ふれあい等、そういう石巻ならではのものと、未来の姿、基本目標を連携させる必要がある。初めに共通目標といったが、これも連携である。軸を連携するところがないと、メリハリがつけられない。１＋１を３にするのも連携だと思う。まだ間に合うと思うので、考えた方が良いと思う。

委　員　：先程出ていたコロナウイルスの話だが、心配しているのは今までの日本は３密、人の助けや共同体等を大事にしていたが、今は３密を否定する社会になっている。その中で、ひとりひとりが多彩に輝いて、共に助け合おうという現実と逆の方向性を市としては信じたい訳である。尚且つ、市民と行政が一体に、と言っても市民は幅広い。先程の所得の話で言えば、石巻はある程度高い所得の集団と言えば、市役所、日本製紙、金融団くらいしかいない。そういう恵まれた人たちが

主体にならないと、絵に描いた餅になってしまう。名前を変えても通用するようなまちではいけない。かつて性善説の国が、国際交流が盛んになり、性悪説が主流になり、契約書をベースにしなければいけないという国に変わった。今までの３密を否定するような形になって、どういう形で一般の人が納得してくれるか、気持ちの切り替えを考えてやらないと、片方ではみんなで助け合いましょうと言いながら、片方では３密を避けましょう、離れなさいと、その辺の具体策を考えていく必要がある。石巻市には災害ボランティア制度というのがあって、そういうのを市役所職員や市議会議員が積極的にやっていかないといけない。先日もある申請を出すよう言われたが、組織に入っていない人は書けない書類がある。会議所に入っていれば書けたとしても、会費も払えない個人経営の人もいる。実際にそういう人を助けるためには、例えば市役所を定年退職した人にボランティアに参加してもらって、行政サービスボランティア、交通弱者を助ける、子どもを助けるために道路の安全を確保するだとか、具体的にやっていく必要があるのではないか。また、まちの中に大きな川が流れているのは石巻市の大きな特徴である。北上川を生かしたまちを市民がどのように利用できるか、インパクトがあるような書き方をして、それに基づいた産業や市民生活の絡みを踏まえると、メリハリのある計画になるのではないかと思う。

会　長　：今の議論を支えていくのが構想だと思う。構想を市民ベースにどう落とし込んでいくか整理してほしい。

委　員　：人口について、鈴木委員がおっしゃっていたように、数値を重視した作り方にしてはどうか。令和２年から１０年後には、１２万弱に減ってしまう。社人研の統計に１万人上乗せしているということだが、社人研だと、上位・中位・下位推計のどれをとっているのか、その中間の数値に上乗せしたのか。それから収入について、人口が１．２万人減るということになると、例えば１人当たり年間で３００万円が全て消費されるとすれば、消費額もそれだけ減るだろう。経済力や収入の統計、出生率、結婚年齢等、数値を基準にし、基本構想の中でその数値を出すことによって、石巻市の計画だと分かるようになるのではないか。また、地方公務員職員数について、人口千人当たり職員数は平成２９年時点で７．３９人と東北地方の中心都市の中で多い、とあるが、中心都市の平均はいくらか、それよりどれくらい多いか、数値が漠然としていて分からない。中身が分かるように作っていくと良いのではないか。

事務局　：人口について、お示ししている人口フレームについては精査中の段階ではあるが、いくつかシミュレーションしている。推計するにあたり、１０年後ではなく４０年後の目標値を設定し、推計を重ねている。その中で、国や県の推計等、パターン化して試し、進めているところである。

会　長　：もっと分かりやすい数字を示してもらいたいということだと思う。石巻の特性に合わせて解析してもらいたい。

委　員　：３９頁の将来像の想いについて、地域住民と共に歩むという部分について賛成である。４８頁の住民同士の絆・支え合いで安全安心に暮らせるまち、地域コミュニティの活性化も同様に賛成だが、行政の方で何かを与えて地域住民に活動してもらうというニュアンスに聞こえる。地域住民が主体にならざるを得ないよ

うな仕組みを作っていかないと、行政だけが頑張っても地域住民の意識が高まらず、喜びや達成感につながらないと思う。警察協議会の委員をやったことがあり、宮城県には２５の警察署があるが、その中で石巻市は交通違反や飲酒運転等が多い。石巻市は良いものもいっぱいあるが、地域住民の意識を変えるシステムを作っていかないと、一部の人が頑張っても、まちは変わらないのではないか。地域住民が主体的に動けるようなシステムを、基本構想土台として具体化できるものにしていくべきだろうと強く思っている。アンケートについて質問したことも、このことである。統計的な資料の取り方だけでなく、地域住民が市のことを考えているのか、意識を高揚させるような仕組みを構築していく必要があるのではないか。

会　長　：多彩ということが見えてこない。現状はこうであると述べた上で、多彩とは何か、もう少し解析が進むことを期待したい。

事務局　：住民が主体ということについて、現時点では、基本構想で役割は表現できていない。計画の段階では市民・行政の役割を区分けしながら位置づけて作っていきたいと考えている。また、前計画では１市６町が合併したことにより、７つのエリア別構想を示していた。今後、そういったエリア、特色を出しながら計画に反映していきたいと考えている。

会　長　：地方の時代と言われているが、合併も促進している中で、地方に任せていく、地方自治をその中でやっていく覚悟も必要である。構想はそういうことを書いていくのだと思う。多彩性とか住民の在り方等が、記載されることが必要だと思う。もう一度組み立てることを考えてもらえると良い。

４　その他

次回の日程について、すでに８月２６日（水）午後６時からの開催と通知しているが、８月２７日（木）午後６時からに変更する。後日、文書にて改めて通知する。

５　閉会あいさつ　大槻副会長

６　閉会

石巻市総合計画審議会委員名簿

No.	氏　　名	所　　属	備　　考
1	岩田　司	東北大学災害科学国際研究所 教授	会長　出席
2	大槻　英夫	社会福祉法人石巻市社会福祉協議会 会長	副会長　出席
3	関根　慎吾	石巻専修大学経営学部　教授	出席
4	鈴木　康夫	東北福祉大学総合マネジメント学部 学部長・教授	出席
5	佐藤　伸吾	国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所　所長	出席
6	佐藤　靖	宮城県東部地方振興事務所　所長	欠席
7	青木　八州	石巻商工会議所　会頭	出席
8	須能　邦雄	石巻市水産振興協議会　会長	出席
9	松川　孝行	いしのまき農業協同組合　代表理事組合長	欠席
10	阿部　隆	特定非営利活動法人石巻市スポーツ協会 会長	出席
11	西條　允敏	石巻市文化協会　会長	出席
12	立花　善孝	一般社団法人石巻青年会議所　理事長	欠席
13	千葉　陽子	石巻市女性活躍推進会議　副会長	出席
14	木村　民男	石巻市子ども子育て会議　会長	出席
15	佐々木　清勝	河北地域まちづくり委員会　会長	出席
16	大槻　敏也	雄勝地域まちづくり委員会　副会長	欠席
17	今野　まゆみ	河南地域まちづくり委員会　委員	出席
18	伊藤　桂子	桃生地域まちづくり委員会　副会長	欠席
19	佐藤　尚美	北上地域まちづくり委員会　委員	欠席
20	後藤　ゆか	牡鹿地域まちづくり委員会　副会長	欠席

（令和２年８月３日現在）（敬称略）